

N I I

未来の読書を考える

e読書ラボで電子と紙を読み比べ

国立情報学研究所(NII)は先月30日(金)、未来の読書を体験できる「e読書ラボ」を、東京・神田神保町にある「本と街の案内所」内に開設した。電子書籍端末や紙の本、パソコンを設置したオープンスペースになっている。e読書ラボの取り組みを取材した。

NII連想情報学 研究開発センター特任 助教の阿辺川武氏はe読書ラボ開設の背景をこう説明する。

「われわれは、新書 中にあるさまざまな電子書籍端末を使って、マップなど書籍検索に どういう読書スタイルが可能なのかが研究してきたが、現在は電子書籍についても、市 いる。その一環としてe読書ラボをオープンした」。

「若い人も多いが、高齢者の方も電子書籍に関心を持っており、端末を積極的に操作している。端末購入を希望する方もおり、電子書籍端末がどこで買えるのかという質問をよく受ける」(e読書ラボのスタッフ)。

NII連想情報学 研究開発センターの間 下亜紀子研究員は「女性には片手で持ちやすい端末を好んでいる。画面がカラーか白黒かはあまりこだわっていないようだ」と話す。

e読書ラボのオープン時間は11時30分から18時まで。日曜日と祝日は休み。阿辺川氏は「最低1年間は継続したい」と述べる。

来場者の反応も上々のようだ。「1日50〜60名が訪問する。来場者の中には、設置



e読書ラボの様子



書籍タイトルは電子と紙を用意



電子と紙を読み比べることができる

はマンガや雑誌など娯楽系の書籍も取り揃えたいとしている。

e読書ラボの1つの特徴は、同じタイトルの電子書籍と紙の書籍を両方用意し、読み比べができるようにしている点だ。

例えばiPadのコンテンツに「元素図鑑」があるが、これは紙バージョンもある。電子書籍では動画が織り込まれていたり、指で対象物を操作したり、体感的にコンテンツを楽しむことができ

み込みたいときは、紙のほうが理解が進み便利だ。e読書ラボに来れば、このような読み比べができる。

「来場者には、紙と電子を読み比べて、それぞれの利便性をわかってもらいたい。われわれの本質的な狙いは、読書を普及させることであり、長いテキストを読んで思慮を養う環境を醸成したいと考えている」と阿辺川氏は述べる。

そのほか辞書をはじめとした参照系の電子コンテンツを一括して閲覧できるサービスを用意している。

また未来の読書を考えるコーナーとして、NIIの読書環境に関する研究成果を紹介。実際に試用できるサービスとして提供している。

来場者の反応も上々のようだ。「1日50〜60名が訪問する。来場者の中には、設置

されたすべての端末を試していく人や、2〜3時間滞留する人もいる」(阿辺川氏)。

老若男女を問わず来場するが、想定した以上に高齢者や女性が多いという。